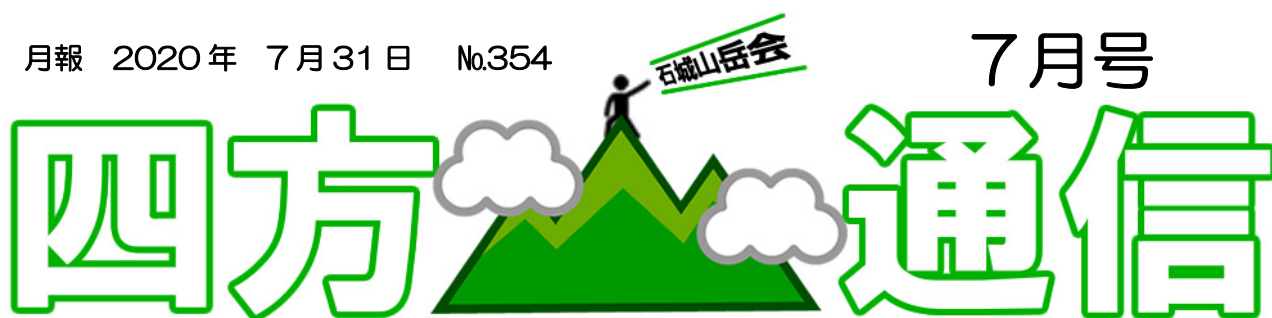


月報 2020 年 7 月 31 日 No.354

7 月号



石城山岳会事務局編集

大滝根山 1192.1m、高塚山 1066.1m

羽山 969.9m

三森山登山（7月登山教室）

7月登山教室「三森山（656.2）」

花塚山（918.5m）

月山 1984m（1 日目）

月山 1984m（2 日目）

神室山（1,365m）周回

大滝根山 1192.1m、高塚山 1066.1m

6月27日 渡辺敏夫

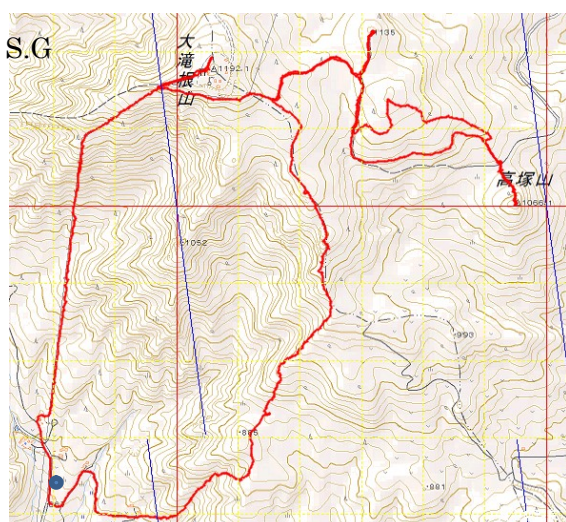
大滝根山は登山口の入新田から登ったことがないので、こちらのコースから大滝根山と高塚山を目指した。こちらのコースは石ポッケやペラペラ石を巡回できるのが楽しみだった。出発するのは石ポッケの案内板のある所を予定していたが、道が広く通りやすい入新田の道路わきに車を止めて出発した。最初はスギ林の中の涼しい状況だったが、次第に登りが急傾斜になり道脇の笹藪が密になりかき分けながら進んだ。笹藪の脇に急に石ポッケの露岩が現れた。大分高度を稼いだ。この辺りには花崗岩の大きな岩の露出が方々にみられる。しばらく進み尾根に出てペラペラ石の分岐に出る。ここからペラペラ石まで緩やかな登山道を進む。ペラペラ石は大きな石の塊が露出しているところだ。そこから、高塚山へ進んだ。高塚山のふもとには立派なキャンプ場のレストハウスがあるが、誰もいなく静まり返っていた。そこから、高塚山を登って大滝根山山頂へ進み、昼食を取って入新田コースを下山した。このコースは、山頂施設への電源供給用の送電線に沿うコースで傾斜が結構急で、あまり利用されていないようだが、所々藪があるが刈払いが行われてふみ跡がしっかりある。急な斜面を急いで降りて登山口に戻った。天候もよく楽しい登山でした。



石ポッケの露岩から山頂



ペラペラ石の巨岩



分岐から入新田コースを見る

コースタイム 入新田登山口 9:20→石ポッケ 10:25→ペラペラ石分岐 10:58→ペラペラ石 11:09
11:13→高塚山 11:40 11:47→ペラペラ石分岐 12:26→大滝根山 12:43→昼食 12:49 13:11
→登山口 14:07

羽山 969.9m

6月27日 渡辺敏夫



雑草で覆われた羽山登山口の案内板

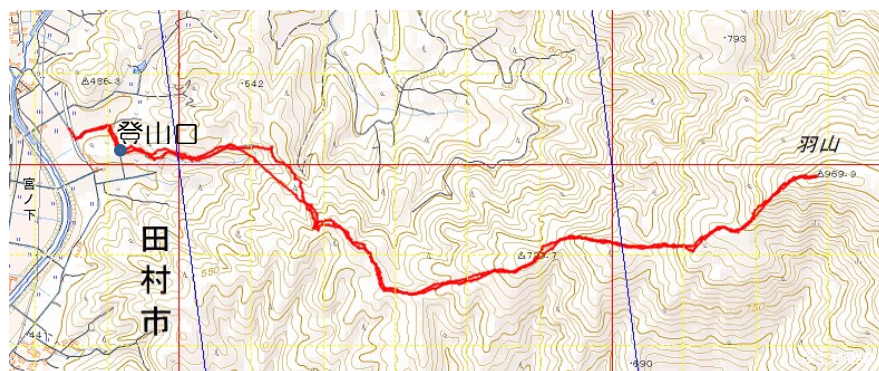


展望のない羽山山頂

大滝根山を2時過ぎに戻り、次に目指す羽山をどうするか迷ったが、天気も良いし7時過ぎまで明るいので登ることにした。羽山登山口に車で入ろうとしたが、あまりにも道が細いのと、登山口に

車を止める場所があるか心配だったので、手前の道路脇に車を止めて出発した。登山口には案内板があるが、雑草で覆われているのでこの先藪になっていないか心配しながら進んだ。所々夏草が茂って道が不明確なところもあったが、何とか山頂に到達した。この時期は登山者が少なく、藪で覆われると道が不鮮明になる。山頂の展望もきかないので、夏の時期は登山には適さないのではないかと。秋以降の登山が良いように思われます。

コースタイム 羽山登山口 14:34→山頂 16:11 16:19→登山口 17:17



三森山登山（7月登山教室）

2020年7月12日（日）

生徒9名 会員多数

報告者：西 重

7：30 四ツ倉海水浴場駐車場集合後、会員の皆さんの車に分乗し筒木原不動尊駐車場へ。

8：00 曇天・朝靄の中、登山開始。秋葉校長を先頭に大久川沢沿いの林道を登山口へ向けて歩を進める。梅雨時には川の水も澄んでとてもきれいだ。途中、いくつかのチェックポイントで地図読みとコンパスの使い方の実践をしながらの歩行で、登山口までの長い林道であるが、清流の流れやいくつもの小さな滝の音が心地よく疲れを和らげてくれる気がする。

9：20 三森山神社登山口に到着。小休憩後、神社の鳥居をくぐり、登山の安全を祈り出発。登り始めから急登続きで、補助ロープもいくつも取り付けられており、いわき市内の里山とは思えないほどの緊張感とスリルを味わいながら慎重に登る。秋葉校長がいくつもの落花した夏ツバキの花びらをルーペ片手に「この花びらの先は半透明で鳥の羽のようにとてもきれいだ。」との説明をするも呼吸が乱れ上の空状態。その後も直登に近い登りが続き、生徒の皆さんの会話もなくなり、ひたすら歩いた。

二ツ箭山・猫鳴山との分岐を過ぎ、10：30 三森山頂上手前の広場で大休憩となった。

昼食後、虫よけやポイズンリムーバーによる虫刺され時の対応、膝痛などにより歩けなくなった時の応急処置・対応等の説明を受け、昨年の鳳凰三山でのNさんのアクシデントを思い出した。

その後、三森山山頂で記念撮影。下山を始めると大粒の雨が降り出し、歩行中のレインウェア装着の実戦練習をしながら下った。木の根や石が濡れて何度も滑りそうになりながら、一杯森ため池を過ぎ林道に出るが、ここからがまた飽きるほど長い。前半の沢沿いの林道は見所もあり、心地よく歩けたが、こちらは、ただひたすらアスファルトの道を歩き続ける感じである。

13：45 ようやく筒木原不動尊駐車場へ戻ってきた。大雨にも遭わず無事全員が下山でき、途中教室座学の実践も体験し、心地よい疲労とともにちょっとしたスリルも味わえた楽しい山登りであった。

<コースタイム>

8：00筒木原不動尊駐車場 — 9：20三森山神社登山口 — 11：50三森山山頂
— 13：45筒木原不動尊駐車場



7月登山教室「三森山（656.2）」

2020年7月12日（日）

参加者：秋葉校長他山学会会員13名、登山教室生9名

7月の登山教室は大久町の三森山であった。梅雨真っ盛りであり、昨夜は雨も降っていた。今日は雨かなと思っていたが朝は降ってなかった。ラッキーであった。

朝7時30分に四倉海水浴場駐車場に前泊組と落ち合い集合して乗り合わせで出発し、筒木原不動尊駐車場に向かった。駐車場に到着し準備をして8時に登山開始となった。ここからの登山道は県道で車1台が通れる幅であったが人が歩くのには充分であった。先日の室内講習で習った地図とコンパスの使い方の実技を行いながら三森神社へと向かった。途中の大久川の水の綺麗さ（まさに清流）と沢からの小滝が見事である。新緑も良いが紅葉が大変綺麗であろうと思われる。この渓谷に秋にもぜひ来てみたいと思った。三森山神社登山口に着き少し休憩を取った。三森神社に参拝し、鳥居の脇の登山道を登り始める。いよいよ三森山に登ることになる。予想以上に急な登山道である。なかなか登りこたえがある。しかし、女性陣の体力には驚いた。こちらは息も上がり汗だくで着いていくのに必死だったが黙々とどんどん先を歩いて行かれた。自分の体力のなさを痛感し、反省させられた。途中秋葉校長より夏椿の立木の説明があった。自生している夏椿で胸高直径30cm程の大木を初めて見た。感動である。約270mの標高差を登り山頂手前の広場にて昼食となった。やぶ蚊が多くこりゃ困ったと思っていたら、害虫についての講義があり、虫よけにハッカ油が良いことや虫刺されにはポイズンリムーバにて毒を吸引することを教わった。大変参考になった。昼食、講義も終わり山頂に向かった。山頂には三角点と山学会で作った方位円盤があった。近隣の山を見つけるのに役に立つであろう。ただ、今回は今にも雨が降り出しそうな天気の中なので回りの景色が全然見えなくて残念であった。きっと晴れた日には太平洋が一望できるのであろう。山頂で記念撮影をし、下山となる。少し霧雨が降ってきた。合羽を着ようか迷っているとこれも練習だからと着ることになった。確かに私はまだ一度も合羽を着たことがないので良い機会に遭った。また、ズボンを履くときに靴にレジ袋を履いて足を通すとズボンの内側が汚れない事を教わった。その後一盃森ため池で休憩を取り、林道を経て無事筒木原不動尊駐車場に着いた。14時前で約6時間の山行であった。お疲れ様でした。そして今回もいろいろと教えて頂き誠にありがとうございました。また次回もよろしくお願いいたします。

最後に、前泊し酒宴したにも関わらず平気な顔で登山する先輩方には、ただただ尊敬の念を感じております。

タイム

筒木原不動尊駐車場 8:00 → 三森山神社登山口 9:30 → 昼食 10:45

→ 三森山山頂 11:30 → 一盃森ため池 13:10 → 筒木原不動尊駐車場 13:50

（文責：安部）

ポイズンリムーバの使い方の説明様子



山頂での記念撮影



花塚山（918.5m）

2020年7月2日(木)

下山田、秋葉、柏村夫婦、尾形夫婦、吉田(睦)

Kさんの新車、オデッセイで出発。後部座席に3人座るが窮屈さはなく、新車の匂いが心地よい。田村にできたETCで降りられるスマートインター出口から一般道に出て一路川俣へと向かう。入口をきょろきょろしながら走ると「花塚の里」の看板を見つける。Uターンをし枝道に入る。7・8分で花塚山登山口への指導表を見つけ登山口到着。

身支度を整え出発。「無理せず分かれてもいいから、リハビリの一環」と思いながら一緒に歩き始める。道が登りになってくるとやはり呼吸が荒くなる。神社らしき建物が見えてきたので一休み。ここが放鹿（ほうろく）神社、キャンプも出来るようだ。

ここで吾輩は終わりがかな、と思っていたところに、「ゆっくりでいいから先頭で行きな」と非情の言葉が飛んできた。（内心は自信がなかったが）‘ま、いいか’とここからの登りを歩き始める。やはりきつい、2度ほど休み、烏帽子岩では心臓バクバクなので、パルスオキシメーターで心拍と酸素濃度を測る。130と87の値。しばらく休ませてもらうと96と96に下がってきた。ここから上には御室石や行者戻し岩などがあり、一息つくのによい場所だった。特に行者戻し岩は、張り出した岩の下に、つかい棒がおいてあり一見今にも落ちそうな感じや胎内くぐりを楽しみここからは稜線に沿った歩きとなり、富士山が見える展望台（北限として有名）につく。あいにく雲がかかり天下の富士は望めなかったが、写真が飾られていた。

2, 3分で山頂着。柏村さん今日の果物。甘いメロン、吉田さん手作りのアップルケーキに紅茶、紅茶には秋葉さん持参のブランディが疲れを癒してくれた。口直しは尾形さんの漬物。程よい塩気で疲れも飛んでしまった。

リハビリ第一の登頂、休み休みで皆さんのペースを壊したと思いますがおかげさまで山に登る事が出来夢のようでした。「感謝！感謝！」

下りは北峰をめぐり、一周して帰ってきたが、遠回りとなり14時過ぎとなってしまう、東和の道の駅、さくらの道の駅とも15時を回ってしまったので食堂は閉店。さくらの道の駅でそれぞれおにぎり、焼きそば、コロッケ、パンを求め空腹を満たし帰路に就いた。

コースタイム 水石トンネル8:00-9:00花塚の里9:15-9:45放鹿神社9:55-11:00山頂11:20-14:00登山口



月山 1984m (1 日目)

7 月 23 日

佐藤幸子

水石トンネル駐車場 5:00 集合、それぞれの乗車しウキウキ気分で出発しました。9:30 頃月山リフト上駅に着き、登山を開始しました。コースには、雪渓があり登るにも下るにも注意が必要でした。アイゼンは装着した人としない人がいました。月山は、日本有数の豪雪地帯にあり 8 月に入っても登山道に雪の残ることがあり、高山植物の宝庫と呼ばれるのも、この自然環境によるところが大きい。月山では約 350 種類もの花々が見られるという。牛首下分岐着後に、雨が激しく降りカッパの上着を着用し登山を続けました。「山頂はもう少し」との声が聞こえましたが、寒さと疲労により私は足のつりを感じはじめ、次第に足が上がりにくくなりました。私の足のつりを知ると、周りの人が足のマッサージをしてくれたり、漢方薬内服を勧めてくれたり、ゴムホースやゴムバンドを足に巻いてくれました。

それでも私の足のつりが治らず、2,3 人ずつツェルト内で休むよう配慮して下さいました。みんな疲労しているのに不平不満を言う人もいず、温かく見守って頂き、本当にありがとうございました。山の天気は急変するし、自分一人では解決できない困難がたくさんあることを学びました。その後、山の道は雨でぬれ、登山靴は泥まみれになり、岩場はすべり、川では濡れている石の上をゆっくり歩き、16:30 頃、ようやく清川行人小屋に着くことができました。夕食は、栗崎さんが野菜や肉をカットして袋詰めにして下さった材料で、キムチうどん、醤油味のうどんを作りみんなで食べました。とても美味しく体が温まり、本当に感謝、感謝でした。小屋では、地元の山形の方と話が弾み、女性たちにマッサージをしてくれました。とても楽しい時間を過ごすことができました。24 日、スムーズに歩けたのは、美味しいうどんと足のマッサージのお陰だと思いました。自分も登山で困っている人がいたら迅速に動き援助してあげられるように、登山の勉強に励みたいと思いました。本当に皆様と月山登山ができて良かったと思いました。ありがとうございました。



月山 1984m (2日目)

7月24日

蛭田ミチ

清川行人小屋泊。二階の奥の個室で就寝。この部屋は『高松宮様の寝室』として使われたそうです。2日目は一変にして快晴に。早朝から美味しいうどんをいただき『ごちそうさまでした。』元気が出たところで、6:40頃出発。今日は、山頂まで登り返して、リフト駅まで下るコースです。

昨日は、小屋が見えてからが長かった。しかも私にとっては、『沢を渡る！』は難所でした。『ツルッとすべったら どうしよう』疲れていたもので、心の声が叫んでいました。でも今日は、違います。足取りは意外にも軽い。ちょっと余裕です。『あら、水が少ないし、石が見える。よし、渡れる！！』…最初の一步は手を借りましたが…。こうして一時間ぐらい登ったところで振り返ると、雲海に山々が浮かんでる。遠くには吾妻連峰がみえて、眺望が素晴らしいです。緑の大地に雪の白。足元には、チングルマ、ハクサンイチゲなどのたくさんの高山植物が可愛いく咲いている。『あ〜この景色に会いたかったんだあ〜。』と思ったら、ワクワクしてきました。そして、少しずつ高度を上げていくと、目の前には大雪城。雪の状態をみて、『大丈夫、アイゼンなしで行ける。』とリーダーが判断した。『え〜っ アイゼン使いたい。』と心配な私は声に出してしまった。『つま先を雪に蹴り込むといいよ』とアドバイスされ、その後も、アイゼンの出番はありませんでした。それよりも、なんと、ここでロープワークです。やはり山岳会、のんびり登山とはいかないようです。スリング(120)、カラビナ(HMS型)を持参していたので、簡易ハーネスを固定して、ムンターヒッチで懸垂下降の練習をしました。『ねじの部分には絶対にロープを巻き付けないこと！』ロックが外れたら危険です。雪渓の上での実技なので、あっという間に滑落します。貴重な体験をさせていただきました。座学が役に立ち、安全登山を強く意識した瞬間でした。その後、休憩をとりながら、10:00頃、ついに折り返し地点に到着です。月山神社の神様からのご褒美でしょうか？『合わせてくれたんですね？』それぞれ個人で登山に来てくれたMさん、Aさんご夫婦、Kさんご夫婦にサプライズ！遭遇となりました。皆さんニコニコです。11:00頃、さあ〜リフト駅目指して下山開始。ここから牛首までは石段の続く急坂を下ります。4連休ということもあり大渋滞です。石がゴロゴロしているので、落石をおこさないように、慎重に歩きました。正面に姥ヶ岳からの稜線、雪渓で夏山スキーを楽しむ人達を眺めながら、なんだか、うれしくて心の中でガッツポーズがでました。初日の最後の頃、弱音を吐いたものの、今日は体のどこにも不調を感じることなく、まもなくゴールです。(13:00頃到着)会員の皆様には重い荷物にプラスして食料を背負ってもらい、一緒に歩いて声をかけてもらいました。幸運にも、清川行人小屋を管理する地元の方に無料でマッサージまでしてもらいました。人から沢山の力をいただいたことへの感謝の気持ちを忘れずにいたいと思います。ぜひ、また、花の咲くこの時期に訪れたいものです。



神室山（1,365m）周回

2020/7/24 - 25

山行者：西、野地

【初日 往路】

山岳会山行日程と合わず悶々としていたが、急遽二年越しに機を狙っていた神室山へ行くチャンスが訪れた。いわきを5:30出発。高速古川IC経由～鳴子温泉～秋田湯沢市役内口に9:50着。予定登山口は今年一杯、治山工事のため一部通行禁止措置が取られていたが、事前リサーチにより休日は、登山口P迄進むことができルートも狙い通り周回可能である事を把握していた。

10:10 小屋泊まりのため、ゆっくり目にスタート。西ノ又コース約4時間の行程を予定。西ノ又川を左手に見ながら20分程歩き、川幅約2Mの第一渡渉点を通過。間もなく第一吊り橋に到着。登山道での吊り橋は初体験。工事現場で使われる幅約40cmのアルミステップが敷かれており、10cm程の隙間がある。足元から川が透けてソクソクする。一步毎、全体が揺れる。一人が渡りきるまで待つ間に緊張が走る。

更に30分程沢沿いの片傾斜を進むと、第二吊り橋が出現。先程と同様の構造で全長は約50m。二度目で落ち着いて渡るものの傾斜がついており、サイドワイヤーを掴みながら横揺れ、縦揺れに同調しながらたどたどしい。バンビの子どもが初めて立つようだ。

沢沿いの高度がある左片斜面の第二渡渉点を通過し緊張感をもって進む。第三渡渉点に着くと、森に轟音を放つ三十三尋の滝に出会う。荒れた河原で大きな石がゴロゴロしており、急流のため安全な飛び石箇所を探す。そこから急登が始まり、息が上がるころ「不動明王」の祠に到着。(12:20)「最後の水場」の表示。手の切れるような冷たい水を補給しながらの大休止となる。

登行再開直後、胸突き八丁坂でたつぷりと汗を絞られる。急な登山道は通常ジグザグに切ってあるものだが、ここは正に「直登」。休憩場がない。息絶え絶えになりながらやっとの事で通称「熊の昼寝坂」へ抜ける。漸く樹林帯から脱出し空が見えるところで一息つくが、バテバテで頭が虚ろになっている。ここからも左片斜面は続き、まだまだ気は抜けない。(一年前の滑落が過ぎり、一步一步の重心位置を考えながら慎重に進む)

一方、急斜面には、長い梅雨空からようやくの夏を思わせる草花に彩られている。緑の斜面一帯に白のシラネニンジン、カラマツソウ、黄色のアクセントになっているニッコウキスゲが広がる。

尾根道の両側には、アカモノ、イワイチョウ、イブキトラノオ、オオバギボウシの白色が存在感を示し、ピンクのウラジオヨウラク、ハクサンチドリ、ハクサンフウロがフラワーロードを形作る。ここで先ほどの森の中の直登・悪戦苦闘が報われ気持ちいい。

気分良く「御田の神」に到着。(14:40) 予定時間をかなりオーバーしているが、ここは広い湿原と花々に囲まれており最高だ。次に、長年見たいと思っていた「キヌガサソウ」群生地へと進む。結果的には、既に花期は終了しており大きな葉っぱの真ん中に萎んだ花が残っているだけだが、その数たるや「日本最高の密度」を誇るだけあり素晴らしいキヌガサロードである。そして、木々に囲まれた急登の天空にポツカリと空いた「窓ぐり」を抜けると主峰を「神室山」とする神室山地の山々がドーンと現れる。それはマサにド・ドーンだ！素晴らしい稜線が見える。艱難辛苦に耐え、漸く目にする光景なのだ。涙がチョ切れるぜ！

ここから先は両側が切れ落ちている。怖い素晴らしいフラワーロード第3章が頂上まで続く。興奮しながら歩を進めると白いセンジュガンピの群落が登山道両側にどこまでも続く。花の百名山とし

て「ミネザクラ」がエントリーされていたが、「センジュガンピ」の山と言っても良いのではないかな？と思うほどだ。花を愛でながら、そして緑の稜線を眺めながら頂上 1,365M へと出る（15:50）。360 度の絶景パノラマが広がり、100M 程下には「神室山避難小屋」が見える。山容は 2,000m 台の山々に匹敵する正真正銘の東北のアルプスだ。

眺望を堪能した後、小屋に入り間取りや様子を確認するが、清潔に保たれ、敷きマットや毛布も用意されており山岳会や地元の方々に愛されている事を強く感じる。今日の宿泊者は 7 名。明日も梅雨空の晴れ間を期待し就寝。

【 二日目 復路】

朝 2 時。屋根を叩く強い雨音で目が覚める。不安になりながらゆっくりとスマホの「てんきとくらす」を見る。6 時から「B」マーク。強く念じながら夜明けを待つ。朝 4 時、雨脚は弱ってきており、お湯を沸かしながら出発の時間を調整する。

6 時、もう雨音は聞こえない。ガスが立ち込めてはいるが、視界は 20M 程利く。出発だ。今日の山行時間は慎重に約 4 時間を見込む。先行する 4 名は我々と同じコースを辿るようだ。道案内をして頂き、こっそりついて行こうと残念なマイナス思考にすぎた。事前に、年内の通行禁止で刈払いしておらず藪漕ぎが多く、また分岐点も分かりづらいとの情報もある。コンパスとスマホアプリで方向を確認しながら進むことにした。

前日に見たフラワーロードの花々も雨に打たれ、うなだれている。コースは「パノラマコース」だが展望は無い。進むにつれ、登山道はうっすら見えるが藪漕ぎ状態になってきた。胸あたりまでに両サイドの草木が容赦なく当たる。樹林も覆いかぶさっている。次々に顔や頭を小枝が叩く。全身ずぶぬれ状態になりながらアップダウンを繰り返し「前神室山頂上」に着く。（7:40）

ここで休憩中の先行者 4 名に追いつく。高知から東北遠征に来ているそうで、かなりの健脚と見受けられる。ここからは我々 2 名が藪漕ぎ先行し、文字通り「露払い」となった。全身ずぶぬれになり、「ざんげ坂」の急勾配と、ぬかるみが徐々に体力と大腿四頭筋の筋力を奪っていく。ズルリと尻餅をつく事、二度三度。漸く平坦な「第一ピーク」に到着する頃、体に異変を感じるようになる。兎に角、疲れた。くたびれた。勾配に正対できなくなった。横歩き、また後ろ向きに辿る場面も出てきた。時折、ガスが切れ膨大な山容も見せるが感慨に浸る余裕は無くなってきている。二人の歩みは鈍い。こまめに休憩を取る。ガサゴソとパンやつまみを出しながら呼吸を整える。後続の方が 2 名下りてきた。1 名がひざを痛め付き添い、先行して車を登山口まで待機するとの事。何でも、痛めたのは地元案内の男性で遠征の女性 3 名は至って元気らしい。

登山口までの残り距離をスマホで確認する。残り直線 800m。登山道は 3 倍超あろう。疲れもピークで、女性達と抜きつ抜かれつしながら治山工事中の登山口へと戻った。（10:40）ついでながら女性 2 名を車で離れた駐車場まで約 2km を送り届け、想定以上の山であったことをお互いの感想としての会話としお別れした。それにしても「神室山」侮るなかれ・ダ！

（文責：野地）

コースタイム

役内口 10:10→15:50 山頂→16:10 避難小屋・翌 6:10→7:40 前神室山 8:25→10:40 役内口

神室山



センジュガンピ



避難小屋

